

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	870101474		
法人名	株式会社 ハートピア		
事業所名	ケアホーム 日なた家		
所在地	水戸市酒門町1739 (電話) 029-304-6677		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】 (平成19年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 20 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	20.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	310 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (9月30日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	8	要介護2	9
要介護3	6	要介護4	4
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 66 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	会沢内科クリニック	高橋外科	土沢整形外科
---------	-----------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員はグループホームに関わる法令の意義を理解しており、職員は「明るく元気にいこう」の理念を共有しながら入居者一人ひとりの自立支援に取り組んでいる。
運営推進会議は定期的に開催して課題解決に大きな役割を果たしている。
地域との関係もよく積極的に交流している。
関係書類は整っており、ユニットを色分けファイルで管理している。
記録の内容を具体的に記録し、サービス支援に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価・外部評価での課題を全て解決している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者はもとより、全職員が評価の意義を理解するとともに、全職員で自己評価を行っている。 また、評価で分かった課題について、計画的・具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の委員は、関係する機関や地域団体等5者で構成し、定期的に会議を行うとともに、提案事項について十分な話し合いを行っている。 水戸市役所高齢福祉課・介護保険課・水戸市社会福祉協議会等と積極的に連携を図りながら、サービスの向上に努めている。 また、市からの要望を受け入れている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会後や家族の面会時に管理者や計画作成担当者と話し合う時間を設け、希望や要望・意見を聴き運営に反映している。 ホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の動行について毎月家族に報告している。 また、金銭の出納明細書の写しと領収書を毎月一緒に送付し確認している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の文化祭やお祭りに参加するなど、地元の人達と親しく交流している。 ホームの一部を地域の活動の場に提供している。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざすホームとして「明るく元気まいこう」を事業所独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティングや会議等のほか日常的に確認し合い、全職員で共有化を図るとともに、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の文化祭やお祭りに参加するなど、地元の人達と親しく交流している。 ホームの一部を地域の活動の場に提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者のもとより、全職員が評価の意義を理解するとともに、全職員で自己評価を行っている。 また、評価で分かった課題について、計画的・具体的な改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は、関係する機関や地域団体5者で構成し、定期的に会議を行うとともに、提案事項について十分な話し合いを行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	水戸市役所の高齢福祉課・介護保険課・水戸市社会福祉協議会等と連携を図りながらサービスの向上に努めている。 また、市からの要望を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の動行について毎月家族に報告している。 また、金銭の出納明細書の写しと領収書を毎月一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会後や家族の面会時に管理者や計画作成担当者と話し合う時間を設け、希望や要望・意見を聴き運営に反映している。 ホームの苦情相談口を設置し、担当者を配置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の親密度は強く、職員の離職や異動などで利用者が動揺しないよう細心の注意を払っている。 職員は全ての利用者と上手く付き合えるよう心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成は段階や能力に応じて、年に2～3回の講習会や研修会に受講参加している。 受講者は研修報告書を作成して会議等で発表するなど、研修に参加できない職員に周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間でネットワークを作り、勉強会・研修会・相互訪問活動を通してサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホーム生活に馴染めるよう契約前から職員が説明に訪問したり、ホームに来てもらったり、更に家族とも相談しながら入居に向けての工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「利用者は人生の先輩である」という考えを共有しており、支援する側・される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや声かけを行い、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに最良の暮らし方を提供するため、利用者はもとより家族と話し合いを重ねて意向を把握し、具体的に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮せるよう本人や家族の要望を聴き、事業所以外の関係者の意見を取り入れ、課題となることを職員全員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の見直しは6ヶ月に1回行っている。状態が変化した際には関係者が検討して、家族・本人の要望に応じて随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎等、本人や家族の状況・その時々々の要望に応じて、多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が適切な医療を受けられるよう協力医療機関と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、医師・職員を交えて早期から話し合いの機会を作り支援に結びつけている。	○	終末期の対応について入居者・家族・医師・職員を含めた関係者と話し合うとともに指針を作成し重要事項説明書に添付し、入居時に説明しておくことを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が情報保護法を理解し、個人情報の保護に努めている。 支援等を行うにあたり利用者を傷つけないよう、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 個人の記録等は所定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にするとともに、日々快適に過ごせるよう希望に沿って支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員者は利用者と一緒に食事の準備や後片付けを行うとともに食事が楽しみなものになるよう雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた入浴を一人で、または、気の合った仲間と楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑や花だんの手入れ、食事づくりなど利用者の得意なことが発揮できるよう場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩・外食・栗拾いなど、利用者の希望にそった外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の出入り口に鍵を設置しているが開閉は入居者に任せている。 日中玄関の鍵はかけないようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的な避難訓練や防災訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養摂取量は食材会社から届く、カロリー計算された食材を調理している。水分量は1200cc～1500cc見当で習慣に応じた支援をしている。摂取量等については個人別に記録している。		
CC					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の各所に利用者の作品や写真、居間には花や額などの好みの品々を飾るなど、生活感や季節感を取り入れている。また、不快な音や光・臭いのない居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使いなれた日用品や装飾品、好みの造形品などを活かして本人が居心地よく安心して過ごせるよう配置している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。